

第一問

(五)	変	め	で	す	が	オ	(四)	(三)	(二)	(一)
a	容	に	、	る	車	ー	<p>(四)</p> <p>(三)</p> <p>(二)</p> <p>(一)</p>	<p>患者と様々な立場の関係者が集い、いかなる発言も排除されずに全員が平等に話し、次々と新たな語りが触発され、多様な語りが場に満ちていくこと。</p>	<p>患者と様々な立場の関係者が集い、いかなる発言も排除されずに全員が平等に話し、次々と新たな語りが触発され、多様な語りが場に満ちていくこと。</p>	<p>患者と分析家は対等なはずなのに、分析家が患者の頭上で語る配置をとること で、権威ある超越者としての分析家に患者が服従する関係が築かれること。 精神分析では、患者が分析家を幼少期の養育者に重ね、分析家による解釈 を受け取ることで、自らの超自我を抑圧のより少ないものと刷新しようから。 患者と様々な立場の関係者が集い、いかなる発言も排除されずに全員が平等に</p>
変	が	患	専	超	座	ポ				
貌	生	者	門	越	で	ン				
b	じ	が	家	者	行	ダ				
親	、	心	同	に	う	イ				
戚	症	の	士	患	平	ア				
c	状	内	も	者	等	ロ				
幻	の	で	対	が	な	ー				
覚	改	対	話	徒	対	グ				
	善	話	を	属	話	で				
	が	す	行	す	に	は				
	可	る	い	る	よ	、				
	能	こ	、	関	リ	患				
	と	と	そ	係	、	者				
	な	で	れ	を	頭	と				
	る	、	を	排	上	全				
	こ	個	受	し	に	関				
	と	人	け	た	君	係				
	の	の	止	上	臨	者				

第二問

(五)	(四)	(三)	(二)	(一)		
大将は、飛鳥井の女君に自身への執着を捨て、成仏してほしいと思ったから。	大将が盛大に営んだ法要のおかげで、自分は成仏できるといふこと。	飛鳥井の女君が夢に現れ、生前の姿のまま大将の側に座っていると、いふこと。	故人が大将に深く愛を注ぎ、いながら早世したことを、残念に思ふ心情。	エ	イ	ア
				そのまゝ伝えることができないのは、かえって語る価値がない	涙で袖を濡らすのではない人もめったにいない様子である	並一通りでなくさせなせる

第三問

(四)	(三)	(二)	(一)		
			e	d	b
石よおまたちは花いぼれであら私自居易の友人になてもらえまか。	奇怪な石は天のもので人間世界のものとは思えないうこと。	二つの石は一般の役に立たないため、普通の人は関心を示さないうこと。	受け入れてくれないことを	自分の相棒を探し求めま	湖の水辺に捨て置か水
			/	/	/

第四問

(四)	(三)	(二)	(一)
<p>考えて娘がのびのびと育つことを阻害してはいけないのではないかと感じたから。</p>	<p>作物に手を加えずきるとうまくいかないという弥生の言葉を聞き、親の都合や行くことができれば、閉塞した現状を変えられるのではないかと思っただから。</p>	<p>母娘とも気乗りしない授業参観に行くよりも、弥生やその飼犬と畑まで散歩に混沌とした畑を見せ、二人を驚かせようとした目論見が功を奏し満足している。</p>	<p>両親の都合で慣れ親しんだ世界を奪われ新しい環境にもなじめないなか、勢いよく伸びた草にまで苛辛らをぶつけてしまっただけで鬱屈を持って余している。何か事情ありげな少女とその母親に、周囲とは違、作物もののびと育成させている。</p>